

令和 4 年度 白沢小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

広い視野を持ち、心身共に健康で、創造性と実践力に富む、心豊かな児童の育成

(2) 具体目標

『時代を拓く日本人を育てる』

- よく学び考える子・・・「学力の基礎・基本」の確実な定着
- 思いやりのある子・・・「他者を思いやる心」の育成
- たくましい子・・・活動の源となる「体力」の向上

挑戦したりやり抜いたりする「たくましさ」の育成

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

創立 149 年を迎え、歴史や伝統、豊かな自然や文化によって培われてきた本校で学ぶ全ての児童に対し、全教職員が連携・協働し、充実した教育環境のもと、本校の教育目標の達成を目指す。そのためには、全ての教職員が教育への情熱と使命感をもち、児童・保護者・地域住民と協和し、創意と工夫・活力に満ちた教育活動を展開する。また、地域とともにある学校づくりを目指し、家庭や地域や企業とも相互理解を深め、地域の教育資源を活用しながら、知・徳・体のバランスのとれた力、挑戦したりやり抜いたりするたくましさ、自らの夢の実現や社会貢献を指向する志をもった児童の育成に取り組む。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- 楽しく居がいのある学校づくり・・・善い行いや努力を見取り励ます
- 生きる力を育む教育実践・・・体験活動や読書活動の充実
- 社会性の育成・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（宇都宮モデル）
 - ・ 地域とともにある学校づくり・・・郷土への愛情を育む学習の推進
 - ・ 資質向上の自己研鑽と教育環境の整備・・・GIGAスクール構想の更なる推進
 - ・ 働き方を意識した校内業務の適正化・・・明確化、効率化、簡略化

〔古里地域学校園教育ビジョン〕

夢や目標をもち、その実現に向けて、自ら鍛え、思いやる心を磨きながら、生きる力を身につける児童生徒の育成。

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び学校教育法施行規則並びに小学校学習指導要領、栃木県教育委員会施策、宇都宮市教育委員会の基本方針や努力点の示すところに従い、本校教育課程を編成する。
- (2) 令和 4 年度の本校の教育目標の実現を目指して、各教科で育む資質・能力や目標・内容を明確化するとともに、地域や学校の実態及び児童の心身の発達段階と特性を十分に考慮し、特色ある教育課程を編成する。

＜読解力や問題発見・解決能力などの学習の基盤となる資質・能力の育成＞

 - ・言語能力の育成を図るため、必要な言語環境を整えとともに、児童の言語活動を充実すること。また、読書活動を充実させ語彙を増やす。
 - ・コンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】・児童も教師もいきいきと活動する学校，児童も教師も成長する学校，地域とともにある学校の実現による「信頼と魅力ある学校づくり」 ○感染症対策を講じ，教育活動を工夫しながら知・徳・体のバランスのとれた力の育成 ・教職員が児童と向き合う時間を十分かつ適切に確保するため，積極的に業務改善に取り組む組織づくりの推進（日課の改善，資料のペーパーレス化，ＩＴの効果的活用による事務処理・会議の効率化等）
【学 習 指 導】・一人一人が主体的に取組，いきいきと学び合う児童の育成 ～ 基礎・基本の定着を図り，表現力を高める言語活動の工夫 ～
【児 童 生 徒 指 導】・一人一人が自信をもち，共に支え合いながら，生き生きと活動する児童の育成 【健康（体力・保健・食・安全）】・生涯を通して運動に親しもうとする態度を育成し，体力や健康に関する知識や技能を身に付け，自他の生命を尊重しながら，安全な生活を営む児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価															
目指す児童	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 授業の中に学びあいの活動を取り入れ、課題を児童同士で解決するような授業展開を心がけていく。 ② 「話し方の例」や「声のもののさし」を掲示し、基本的な学習態度・技能の育成に努める。 ③ 「白沢小学習の約束」や古里学校園で作成した「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭と連携して学習習慣の形成に努める。 ・児童一人一人の学力の向上のため、自主学習の例を掲示する。 ・学年に応じた家庭学習が習慣化できるよう指導していく。 ・家庭と連携を図り、保護者の意識を高めていく。	B	【達成状況】A1 (○) <table><tr><th>A 1</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr><tr><td>児童</td><td>90.0%</td><td>95.3%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.5%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.9%</td><td>95.0%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr></table> ・児童の肯定的な回答が95.3%で目標を達成している。 ・学びあいの活動を取り入れるなど、授業展開を工夫したところ、落ち着いて学習に取り組む児童が増えた。 【次年度の方針】 ・今後も、児童一人一人の学力の向上のため、発達段階に応じて、話し方、声のもののさし、話の聞き方、発表の仕方、話合いの仕方等を指導する。 ・引き続き家庭と連携を図り、保護者の意識を高めていく。	A 1	R 3	R 4	児童	90.0%	95.3%	教職員	95.5%	100.0%	保護者	89.9%	95.0%	地域住民		
	A 1	R 3		R 4															
児童	90.0%	95.3%																	
教職員	95.5%	100.0%																	
保護者	89.9%	95.0%																	
地域住民																			
A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 道徳において、相手の気持ちを考えたり、その時の自分の行動を考えたりする授業を実践していく。 ② 他の児童が行った、思いやりの行動を「ありがとうのふわふわ雲」に掲示することで、児童同士が互いのよさを認め合えるようにする。 ③ 異学年の交流活動等を計画的に設定し、児童の思いやりの心を育てる。 ・「なかよしタイム」や昼休みの活動 1年生となかよく遊ぼう集会、(古里地域学校園、児童会による)あいさつ運動、運動会スローガン、歳末助け合い、感謝の会、6年生を送る会	B	【達成状況】A2 (○) <table><tr><th>A 2</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr><tr><td>児童</td><td>85.2%</td><td>91.5%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.9%</td><td>93.0%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>94.7%</td><td>100.0%</td></tr></table> ・児童の肯定的な回答が91.5%で目標を達成している。 ・③については、異学年交流を多くできたので、上級生が下級生に対して優しく接し、児童に思いやりの心が育っている。 【次年度の方針】 ・①②③について継続して取り組んでいく。	A 2	R 3	R 4	児童	85.2%	91.5%	教職員	100.0%	100.0%	保護者	88.9%	93.0%	地域住民	94.7%	100.0%	
A 2	R 3		R 4																
児童	85.2%	91.5%																	
教職員	100.0%	100.0%																	
保護者	88.9%	93.0%																	
地域住民	94.7%	100.0%																	

の 姿	A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、決まりやマナーを守って、生活をしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 本校の生活目標を明確化した「すてきな虹色白沢っ子」を活用し、スモールステップで目標を達成できるようにする。また、月目標の提示方法や重点チェック期間、振り返り方を見直し、児童一人一人が「守ろう」という意識を高める工夫をする。 ・廊下の歩行（教室移動時・休み時間） ・終業のあいさつと次時の準備 ・遊び方の共通理解 ・清掃中、清掃後の指導の徹底 ・良かった点を朝会等で称賛する。 ・児童指導主任や代表委員児童が放送等で呼びかける。 ② 各種便りを通して、重点目標への取組や児童の変容などを保護者や地域に周知し、児童の意識を高めたりして、家庭や地域と連携を図りながら指導していく。 ③ 生活のきまりや学習のきまり等の掲示物を作成し、児童の意識化を図るとともに、秩序があり安全な学校生活が送れるよう教職員が一体となって児童の育成に当たり、指導と振り返りを繰り返し行っていく。 ・休み時間の過ごし方 ・授業の始まりの準備	A	【達成状況】A3（△） <table><tr><td>A3</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>児童</td><td>77.2%</td><td>86.8%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.5%</td><td>91.3%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.4%</td><td>96.5%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答が86.8%で、前年度より9.6%向上したが、数値指標を達成していない。 ・廊下の歩行の仕方や、時間を守ることなどの意識がまだ低い面が見られた。 【次年度の方針】 ・①についてふり返りの時間をさらに効果的に設けるなど、目標の明確化や実行の意識を高める。 ・児童が学校生活のルールを共通理解して実践できるよう、児童指導主任が朝会時に呼びかけたり、教職員が同一歩調で指導を行っていく。 ・きまりやマナーに関する校内掲示を増やし児童に周知したり、教職員により異なる指導とならないよう、全教職員が共通の指導となるよう共通理解を図る。	A3	R3	R4	児童	77.2%	86.8%	教職員	95.5%	91.3%	保護者	89.4%	96.5%	地域住民	100.0%	100.0%
	A3	R3	R4																
児童	77.2%	86.8%																	
教職員	95.5%	91.3%																	
保護者	89.4%	96.5%																	
地域住民	100.0%	100.0%																	
A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 古里地域学校園や児童代表委員を中心とした朝のあいさつ運動を実施し、意識化・実践化を図る。 ② 児童会による声を出してのあいさつ運動を継続するとともに、学級での指導として、会釈というあいさつの方法があることを成長段階に応じて指導し、あいさつの習慣化を図る。 ③ 教職員が様々な場面で率先してあいさつする姿を見せることで、子どもへの意識化を図る。 ④ 本校のあいさつ運動を学校便りや懇談会等で保護者や地域の方々に周知する。 ・児童が自ら主体的にあいさつできるように、あいさつの習慣化、意識化、実践化に取り組んでいく。 ・家庭でも児童のあいさつ習慣が身に付くよう協力をお願いしていく。	B	【達成状況】A4（○） <table><tr><td>A4</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>児童</td><td>90.8%</td><td>93.2%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>90.9%</td><td>91.3%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>83.0%</td><td>84.5%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答が93.2%で目標を達成している。 ・地域学校園や代表委員を中心としたあいさつ運動を実施し、あいさつの習慣化が図れた。 【次年度の方針】 ・①～④について継続して取り組んでいく。	A4	R3	R4	児童	90.8%	93.2%	教職員	90.9%	91.3%	保護者	83.0%	84.5%	地域住民	100.0%	100.0%	
A4	R3	R4																	
児童	90.8%	93.2%																	
教職員	90.9%	91.3%																	
保護者	83.0%	84.5%																	
地域住民	100.0%	100.0%																	

A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 繰り返し学習したり、少し難しい学習に挑戦したりする場を意図的に作り、児童の意欲の向上や達成感に繋げるようにする。 ・キャリアパスポートの有効活用 ② グループやクラス・学年で目標を持ち、自分たちの力で最後まで取り組むことで、達成感や成就感を味わわせる。また、最後まであきらめずに取り組めたことを認め励ましていく。 ③ 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。	【達成状況】A5 (○) <table border="1"> <tr> <th>A 5</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>90.8%</td><td>92.7%</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>86.4%</td><td>87.0%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>81.3%</td><td>76.6%</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td></td><td></td></tr> </table> ・児童の肯定的回答が 92.7%で目標を達成している。 ・学級活動や帰りの会で互いに認め合う場を設定し、多くの児童を称賛することができた。 ・学校行事や児童会活動において、児童一人一人が目標に向かって粘り強く取り組めていた。 【次年度の方針】 ・保護者の肯定的回答の数値が低いので、学年だよりで児童が粘り強く取り組む様子を積極的に伝えるようにする。 ・長なわ大会のようにクラスで目標を決めて取り組む活動を意図的に取り入れる。 ・児童一人一人の夢や目標の実現に向けて、キャリアパスポートや各種振り返りカードを活用して、活動の振り返りを行い、達成感を味わえるようにする。	A 5	R 3	R 4	児童	90.8%	92.7%	教職員	86.4%	87.0%	保護者	81.3%	76.6%	地域住民		
A 5	R 3	R 4															
児童	90.8%	92.7%															
教職員	86.4%	87.0%															
保護者	81.3%	76.6%															
地域住民																	
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施して、体験活動を通した安全教育を推進する。 ② 健康について児童が実感を伴って理解できるように体力チェックや生活アンケートを活用し、保健学習や学級活動における項目内容を充実させる。 ③ 地域や保護者と連携して感染症対策の徹底を図るとともに、<u>その他の安全教育も委員会活動とタイアップしながら、児童主体の活動として継続する。保健委員会では安全面、体育委員会では怪我の予防等、児童が健康・安全を意識できるような取組を充実させる。</u>	【達成状況】A6 (○) <table border="1"> <tr> <th>A 6</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>88.4%</td><td>92.7%</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0%</td><td>95.7%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>91.6%</td><td>90.3%</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr> </table> ・児童の肯定的回答が 92.7%で目標を達成している。 ・③については、オンライン集会や放送での呼びかけを行ったことで、児童の安全に対する意識が向上した。しかし、廊下の歩行は今後とも指導が必要である。 【次年度の方針】 ・今年度の取組は、効果が上がっているため、次年度も継続していく。 ・学校での安全に関するルールについて徹底が図れるように継続して指導していく。	A 6	R 3	R 4	児童	88.4%	92.7%	教職員	100.0%	95.7%	保護者	91.6%	90.3%	地域住民	100.0%	100.0%
A 6	R 3	R 4															
児童	88.4%	92.7%															
教職員	100.0%	95.7%															
保護者	91.6%	90.3%															
地域住民	100.0%	100.0%															

A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 学級活動や児童会活動、縦割り班活動（児童会・清掃・給食）等において、児童一人一人が集団の一員としての自覚や責任をもち、互いに協力することのよさや自分のよさについて感じることができるよう、活動内容を工夫する。 ② 感染症対策を十分に行い、地域の人材・施設等を可能な限り活用し、多くの人や考え方に触れる機会を増やす。 ③ 地域人材やボランティアを活用し、仕事や職業観についての話を聞く機会や体験的活動を設定して、学習や生活と職業とを関連付ける。 ・とちぎ国体観戦（4～6年） ・町探検（2年） ・キャリアパスポートの有効活用	【達成状況】A7（○） <table border="1"> <thead> <tr> <th>A 7</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>90.8%</td><td>92.7%</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>86.4%</td><td>87.0%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>81.3%</td><td>76.6%</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・児童の肯定的回答が92.7%で目標を達成している。 ・学習・生活、各種行事に向けて目標をきちんと立て、振り返りまで行うことにより、最後まで取り組む態度が身に付いてきている。 【次年度の方針】 ・今年度の取組は、効果が上がっているため、次年度も継続していく。	A 7	R 3	R 4	児童	90.8%	92.7%	教職員	86.4%	87.0%	保護者	81.3%	76.6%	地域住民		
A 7	R 3	R 4															
児童	90.8%	92.7%															
教職員	86.4%	87.0%															
保護者	81.3%	76.6%															
地域住民																	
A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 授業において、担当する教員が自ら積極的に英語を使う授業を展開するとともに、ALTを積極的に活用し、英語によるやり取りを行う活動を設定する。 ② ALTによるお昼の校内放送や休み時間の交流を行い、児童が英語に触れる機会を設ける。 ③ 外国語担当教員を中心に子どもたちの多様な活動の中で外国語が目につくよう、校内掲示を充実させる。	【達成状況】A8（○） <table border="1"> <thead> <tr> <th>A 8</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>88.4%</td><td>91.9%</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>86.4%</td><td>95.7%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・児童の肯定的回答が91.9%で目標を達成している。 ・ALTとの授業で、英語でコミュニケーションをとろうと努力している児童が多くみられる。 【次年度の方針】 ・①～③を継続していく。 ・特に②の取組は、効果的なので、児童が英語に触れる機会を設けていく。 ・これからも、指導法の工夫や改善などを行い、授業力の向上を図る。	A 8	R 3	R 4	児童	88.4%	91.9%	教職員	86.4%	95.7%	保護者			地域住民		
A 8	R 3	R 4															
児童	88.4%	91.9%															
教職員	86.4%	95.7%															
保護者																	
地域住民																	
A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 宇都宮学に関するテキストを積極的に活用し、児童に宇都宮の良さを発信していく。 授業や、市内や地域での校外学習等の機会を生かす。 ・生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等の機会を生かす。 ・3、4年社会科 ・5、6年総合的な学習の時間 ② 郷土に対する誇りや愛情をもてるよう、身近な自然や文化について、生活科・社会科・総合的な学習・特別の教科道徳の授業において学ぶ機会を充実させる。 ・宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう学校便りやホームページ等で保護者や地域の方々に周知する。	【達成状況】A9（○） <table border="1"> <thead> <tr> <th>A 9</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>85.6%</td><td>87.2%</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>77.3%</td><td>82.6%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>53.4%</td><td>66.2%</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・児童の肯定的回答が87.2%で目標を達成している。 ・進んで白沢以外の地区についても調べ学習をする児童が増えてきた。 ・地域への校外学習や各教科での学習を通して児童の宇都宮への関心が高まった。 【次年度の方針】 ・引き続き①②に取り組む。 ・保護者の肯定的回答が前年比10%以上向上したものの、66.2%とまだ低いいため、学校便りやホームページ等で、保護者や地域に、学校での取組について積極的に情報発信する。	A 9	R 3	R 4	児童	85.6%	87.2%	教職員	77.3%	82.6%	保護者	53.4%	66.2%	地域住民		
A 9	R 3	R 4															
児童	85.6%	87.2%															
教職員	77.3%	82.6%															
保護者	53.4%	66.2%															
地域住民																	

A10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に利用している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 一人一台貸与される端末を多様な場面で積極的に活用した授業を展開し、様々な機能（調べる・絵を描く・カメラ撮影等）に慣れ親しむ機会を設定する。 ・G I G Aスクール構想の実現のため授業研究を推進し、一人一台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現に取り組む。 ② 一人一人の習熟の程度に応じた学習や知識・技能に取り組む等、個に応じたI C T機器の活用について理解を深められるよう学校便りやホームページ等で保護者や地域の方々に周知する。 ③ 市図書館等の貸出を利用し、必要な図書資料を豊富に準備し、学習に活用する。 ④ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	【達成状況】A10 (○) <table border="1"> <tr> <th>A 1 0</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>89.2%</td><td>87.2%</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>74.5%</td><td>86.4%</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td></td><td></td></tr> </table> ・児童の肯定的回答が87.2%で目標を達成している。 ・G I G Aスクール構想の実現のため、一人一台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現に取り組んだ。 ・A I 型個別学習ドリルを活用し、一人一人の習熟の程度に応じた学習に取り組む等、個に応じたI C T機器の活用に取り組んだ。 ・市図書館等と連携し、学習に必要な図書資料を準備し授業に活用した。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続していく。 ・端末を活用した課題（スマイルネクスドリルやタイピング等）を定期的に出すことで、家庭でも端末を活用する機会を設ける。	A 1 0	R 3	R 4	児童	89.2%	87.2%	教職員	100.0%	100.0%	保護者	74.5%	86.4%	地域住民		
A 1 0	R 3	R 4															
児童	89.2%	87.2%															
教職員	100.0%	100.0%															
保護者	74.5%	86.4%															
地域住民																	
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒地域住民及び教職員の肯定的回答 80%以上	① 老人会による緑化活動を実施し、高齢者を身近な存在として受け止め、高齢者への感謝の心や敬う心を育てる。 ② ①の活動が難しい場合は、敬老の日近辺に、学級活動や生活科、総合的な学習、児童会活動などを通して、今の社会が成り立っているのは先人の努力があるからであることを伝え、高齢者への感謝の心や敬う心を育てる。 ③ 体験活動と関連を図った総合的な学習の時間や道徳科の授業を実施し、高齢者に対する感謝やいたわりの心を涵養する。	【達成状況】A11 (○) <table border="1"> <tr> <th>A 1 1</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>85.2%</td><td>91.5%</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>88.9%</td><td>93.0%</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>94.7%</td><td>100.0%</td></tr> </table> ・地域住民及び教職員の肯定的回答がともに100.0%で目標を達成している。 ・総合的な学習の時間や道徳の時間に、高齢者に対する感謝の心や敬う心を取り上げ育ててきた。 【次年度の方針】 ・①～③を継続して指導していく。 ・高齢者に対する感謝やいたわりの心を涵養するため、コロナ感染症の状況を鑑み、高齢者との交流活動を実践する。	A 1 1	R 3	R 4	児童	85.2%	91.5%	教職員	100.0%	100.0%	保護者	88.9%	93.0%	地域住民	94.7%	100.0%
A 1 1	R 3	R 4															
児童	85.2%	91.5%															
教職員	100.0%	100.0%															
保護者	88.9%	93.0%															
地域住民	94.7%	100.0%															

	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の友達は、水や電気を大切にしたり、植物や動物を大切にしたりしている」「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について関心をもっている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 生活科・総合的な学習・理科・社会等、地域の自然・文化等を課題とした学習を、地域の方と連携し展開する。 ・各教科で学習した取組について実践できる機会を意図的・計画的につくっていき、児童の持続可能な社会への参画を視覚化し見取っていくようする。 ① 企業の出前講座や委員会活動等、さまざまな機会をとらえ、SDGs の取組と関連付け、環境問題や防災等について、知る機会を増やしていく。 ・過去の災害の具体事例から学ぶ機会を設けるなど、防災教育を充実させる。	【達成状況】A12 (○) <table><tr><td>A12</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>児童</td><td>85.2%</td><td>88.5%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>40.9%</td><td>78.3%</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr></table> ・児童の肯定的回答が 88.5%で目標を達成している。 ・①について授業内で取り上げたり、給食の際に地産地消について触れたりすることで、関心を高めることができた。 ・緑化活動に一生懸命に取り組んでいる。 【次年度の方針】 ・①、②を継続して取り組んでいく。 ・今後も、児童の発達段階に応じた授業づくりをさらに行い、持続可能な社会づくりの実現に向けて、児童の見方・考え方を育てていく。	A12	R3	R4	児童	85.2%	88.5%	教職員	40.9%	78.3%	保護者			地域住民		
A12	R3	R4																
児童	85.2%	88.5%																
教職員	40.9%	78.3%																
保護者																		
地域住民																		
目指す学校の姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 校内支援委員会等により組織的な対応に努め、一人一人のニーズを踏まえ、児童に必要な支援について定期的に検討する。 ② 特別な支援が必要な児童生徒に対して、個別の支援計画を作成・活用して、学校全体として指導に当たる。 ③ 毎月、特別な支援が必要な児童の情報交換を定期的に行い、共通理解を図り、学校全体で対応をしていく。 ④ SCや他の外部機関と連携し合って、個に応じたよりよい支援の在り方について考え、指導に生かしていく。	【達成状況】A13 (○) <table><tr><td>A13</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>児童</td><td></td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員の肯定的回答が 100.0%で目標を達成している。 ・校内支援委員会を通して、児童に必要な支援について定期的に検討をする機会を設けることで、学校全体で共通理解を図り、適切な支援をすることができた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組は、効果があるため、次年度も継続していく。 ・校内教育支援委員会の計画的な実施、かがやきルーム支援員との日常的な情報交換、SCや外部機関との連携等を行い、特別な支援を必要とする児童への支援を継続していく。	A13	R3	R4	児童			教職員	100.0%	100.0%	保護者			地域住民		
A13	R3	R4																
児童																		
教職員	100.0%	100.0%																
保護者																		
地域住民																		

A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① いじめゼロ集会やいじめアンケート、標語の募集の実施などにより、児童への意識化を図り、全教職員が「いじめはどの児童にも、あらゆる場面で起こりうる」、「いじめは許されない行為である」という共通認識のもと、日常的に指導していく。 ② 日常会話や教育相談週間等を通して児童との信頼関係を築いていく。 ・教育相談の活用 ③ いじめを未然に防ぐことを目的とした自己肯定感を高める活動を充実していく。 ・学級経営の充実 ④ 様々な場面でいじめの不当性を指導するとともに、道徳の授業等により児童の心を育てる。また各種便りやHP等の呼び掛けにより、家庭と連携を図り保護者の意識も高めていく。 ・道徳教育の充実 ⑤ なかよしタイムや昼休み等、教員による巡視を実施し、いじめにつながるトラブル等の未然防止に努める。 ⑥ いじめ防止に関する資料や学校での取組を、懇談会や学校便り、HPなどで地域や保護者に積極的に発信する。	【達成状況】A14 (○) <table border="1"> <tr> <th>A 1 4</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>97.2%</td><td>97.0%</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>72.0%</td><td>80.6%</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>93.8%</td><td>95.2%</td></tr> </table> ・児童の肯定的回答が97.0%で目標を達成している。 ・⑤について教師が巡視をすることで、未然防止に努めることができた。 ・教師間の情報交換を密に行うことができた。 ・いじめ防止対策について、保護者へ、各種便りやホームページなどで学校の取組を随時周知した。 【次年度の方針】 ・①～⑥を継続して取り組んでいく。 ・次年度も教育相談や人権週間、いじめゼロ集会やいじめアンケート、標語の募集を実施する。	A 1 4	R 3	R 4	児童	97.2%	97.0%	教職員	100.0%	100.0%	保護者	72.0%	80.6%	地域住民	93.8%	95.2%
A 1 4	R 3	R 4															
児童	97.2%	97.0%															
教職員	100.0%	100.0%															
保護者	72.0%	80.6%															
地域住民	93.8%	95.2%															
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスを作ってくれる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 児童のよさを称賛したり、一人一人が活躍できる場を設定したりし、児童が自己肯定感をもち、安心して生活できるような学年・学級経営に努める。 ② 担任だけでなく、学校組織として児童の状態を把握し、教育相談やQ-U等の結果の活用しながら支援策を検討し、児童への適切な支援に繋げる。 ③ 「できた」「分かった」が繰り返されるなど、授業が児童にとって楽しい時間となるよう努める。 ④ 職員会議後等に不登校対策やいじめ対策を兼ねて、児童指導について情報交換会を実施し、全職員が情報を共有する。 ⑤ 不登校対策委員会を開き、学校全体で対策していく。	【達成状況】A15 (○) <table border="1"> <tr> <th>A 1 5</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>96.4%</td><td>98.3%</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>86.9%</td><td>89.9%</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td></td><td></td></tr> </table> ・児童の肯定的回答が98.3%で目標を達成している。 ・児童指導についての情報交換を随時・計画的・組織的に行い、教職員は共通理解のもと、指導にあたってきた。 【次年度の方針】 ・今年度取組は①～⑤ともに効果が上がっているため次年度も継続していく。 ・教育相談や学校生活アンケートの結果を生かしていじめの早期発見に努め、早期解決につなげる。	A 1 5	R 3	R 4	児童	96.4%	98.3%	教職員	100.0%	100.0%	保護者	86.9%	89.9%	地域住民		
A 1 5	R 3	R 4															
児童	96.4%	98.3%															
教職員	100.0%	100.0%															
保護者	86.9%	89.9%															
地域住民																	
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 言語・文化の違いを理解し、児童への、日本語の指導を行うとともに、学級での温かな雰囲気づくりに努める。 ② 保護者のニーズを把握し、通訳や翻訳の必要性を相談し、保護者の学校理解がなされるよう努める。 ③ 特別な支援を必要とする児童に対して、かがやきルームや日本語指導教室を活用し、適切な支援を行う。	【達成状況】A16 (○) <table border="1"> <tr> <th>A 1 6</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> <tr> <td>児童</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td></td><td></td></tr> </table> ・教職員の肯定的回答が100.0%で目標を達成している。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、保護者との連携を密にしていく。 ・特別な支援を必要とする児童について、教職員で共通理解を図り、必要な支援を組織的に行う。	A 1 6	R 3	R 4	児童			教職員	100.0%	100.0%	保護者			地域住民		
A 1 6	R 3	R 4															
児童																	
教職員	100.0%	100.0%															
保護者																	
地域住民																	

A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「自分は今の学校が好きである」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 児童の自己肯定感や主体性をさらに高めるために、各行事や児童会活動、クラスで協力する活動（長縄・ドッジボール大会・ロング昼休みを活用したクラス遊び等）において主体的に活動できる場を設定していく。 ・児童が主体的に取り組む場や機会を、意図的・計画的に、学校行事や特別活動等で実施する。 ・居がいのある学級づくりを目指し、予防的・計画的な学級経営を行う。 ② 児童の心の安定や居がいのある学校づくりのため、児童と教師の関わりをさらに深め、児童に寄り添い、児童を肯定的に捉えていく。 ③ あいさつ運動を通して、児童が主体的に他者との関わる機会を設定することで明るい雰囲気をつくる。	【達成状況】A17 (○) <table border="1"> <tr> <th>A17</th><th>R3</th><th>R4</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>87.6%</td><td>93.6%</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>95.5%</td><td>95.7%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>87.3%</td><td>88.8%</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr> </table> ・児童の肯定的回答が93.6%で目標を達成している。 ・積極的に校庭に出る子が多く、なかよしタイムや昼休みに異学年を含めた子供たち同士の交流ができた。 ・①については、縦割り班活動やクラスで協力する活動を通して、児童が前向きに生活できる雰囲気が高まった。 【次年度の方針】 ・①～③を継続して取り組んでいく。 ・新しい生活様式を意識しつつ、その中でもできる活動を積極的に取り入れ、児童の意欲を高められるようにしていく。	A17	R3	R4	児童	87.6%	93.6%	教職員	95.5%	95.7%	保護者	87.3%	88.8%	地域住民	100.0%	100.0%
A17	R3	R4															
児童	87.6%	93.6%															
教職員	95.5%	95.7%															
保護者	87.3%	88.8%															
地域住民	100.0%	100.0%															
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① <u>基礎力を養う朝の学習を計画的に実施するとともに、読解力や語彙力、文章力等の向上を図る言語活動の取組を教職員共通理解のもと実践し、学力向上につなげていく。</u> ② 教員の指導力向上に向けた授業研究を行い、指導方法の工夫・改善や指導力の向上を図り、きめ細かな指導を実施する。 ・一人一授業公開。 ・授業改善チェックリストの活用。 ・ヒントカードや教材提示の工夫。 ③ 少人数習熟度別指導の特性を生かした指導方法の工夫（個別支援や学び合い活動等実態に応じた指導）を取り入れることにより、学力の向上を図る。 ・実物投影機や大型テレビ、デジタル教材、タブレット端末等、ICT機器の活用。教材の工夫。体験活動の活用。 ④ ノートやワークテスト、プリントなどに励ましやアドバイス・コメントなどを入れる等、児童一人一人の学習への意欲を高める。	【達成状況】A18 (○) <table border="1"> <tr> <th>A18</th><th>R3</th><th>R4</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>97.2%</td><td>97.9%</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>82.7%</td><td>86.5%</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td></td><td></td></tr> </table> ・児童の肯定的回答が97.9%で目標を達成している。 ・研修が計画通りにできた。 ・全職員が一人一授業を公開した。 ・全職員が共通理解を図り、分かる授業の実現のため授業研究を行い、指導方法の工夫や改善に取り組んできた。 【次年度の方針】 ・一人一授業を公開する際には、全職員で参観し、成果と課題を話し合う機会を設ける。 ・研修を通して全職員の学習指導への意識を高める。 ・引き続き、児童の実態把握を十分に行い、児童一人一人に応じた、分かりやすい丁寧な指導を実践していくことで、学力向上を図る。	A18	R3	R4	児童	97.2%	97.9%	教職員	100.0%	100.0%	保護者	82.7%	86.5%	地域住民		
A18	R3	R4															
児童	97.2%	97.9%															
教職員	100.0%	100.0%															
保護者	82.7%	86.5%															
地域住民																	
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる教職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 学校図書館司書業務嘱託員、学校栄養士、かがやきルーム指導員、ALT、スクールカウンセラー等と、打ち合わせや情報交換の時間を確保するとともに、学校に関わる教職員どうし日常的な情報共有に努め、コミュニケーションを図っていく。 ② 職員会議や学年会等での児童の情報交換を密にし、共通理解を図る。 ③ 困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気を大切にしよう。	【達成状況】A19 (○) <table border="1"> <tr> <th>A19</th><th>R3</th><th>R4</th></tr> <tr> <td>児童</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>95.5%</td><td>95.7%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td></td><td></td></tr> </table> ・教職員の肯定的回答が95.7%で目標を達成している。 【次年度の方針】 ・指標を上回ったが、引き続き教職員が協力して業務に取り組めるようにしていく。	A19	R3	R4	児童			教職員	95.5%	95.7%	保護者			地域住民		
A19	R3	R4															
児童																	
教職員	95.5%	95.7%															
保護者																	
地域住民																	

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答80%以上	① 業務の効率化が図れる取組を積極的に取り入れ、時間内に業務が遂行されるよう、計画的・組織的に取り組めるようにしていく。 ・ねらいを踏まえた学校行事の実施及び月や週のバランスを踏まえた教育課程の編成。 ② 教職員の専門性を生かすとともに、校務分掌の主任のみが活動するのではなく、組織的な取組となるよう、教職員の連携を強化していく。 ・教職員の意識の高揚やリフレッシュデイを設定したりするなど、ライフワークバランスを踏まえた改善。 ③ 出退勤時間の管理により、教職員が時間を意識できるようにする。 ・毎週「金曜日課」の設定。 ・定時退勤日を月に2回以上設定し、勤務終了時刻での退勤の徹底。 ④ 学習情報システム「ミライム掲示板・黒板」等を活用した業務の効率化。 ⑤ 職員会議等の協議事項を精査して時間の短縮を図ったり、学校行事等の見直しを行う、学校運営の改善。	【達成状況】A20 (○) <table border="1"> <thead> <tr> <th>A 2 0</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>86.4%</td><td>82.6%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・教職員の肯定的回答が82.6%で目標を達成している。 ・教職員が時間外勤務時間短縮を意識して職務にあたっていた。 【次年度の方針】 ・指標は上回ったものの、昨年度より下がっていることや、働き方改革は喫緊の課題であることから、業務の効率化に向けて、取組を行っていく。 ・ミライムを活用するとともに、打合せや研修等で教職員の意識の高揚を図る。	A 2 0	R 3	R 4	児童			教職員	86.4%	82.6%	保護者			地域住民		
A 2 0	R 3	R 4															
児童																	
教職員	86.4%	82.6%															
保護者																	
地域住民																	
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答80%以上	① <u>地域学校園研修会や各部会等を定期的に実施し、連携を図る。</u> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3密を避ける指導を継続し、児童の安全・安心を第一に、課題の達成に向けた取組を継続するとともに、活動を精選し質を高めていく。 ② 小中一貫・地域学校園の学校での取組の様子を、懇談会や学校便り、HPなどで地域や保護者に積極的に発信する。 ③ 給食における地域学校園統一の献立やおにぎりの日を実施する。 ④ 「地域学校園の日」を活用して研修や情報交換を行い、地域学校園全体での共通課題の達成を目指す。 ・古里地域学校園「生活のきまり」 ・自主学習推進 ・学習のきまり	【達成状況】A21 (○) <table border="1"> <thead> <tr> <th>A 2 1</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>85.6%</td><td>89.5%</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>95.5%</td><td>91.3%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>77.6%</td><td>84.2%</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>94.1%</td><td>95.2%</td></tr> </tbody> </table> ・保護者の肯定的回答が84.2%で目標を達成している。 ・今年度は、地域学校園の中学校との乗入れ授業を実行することができた。 ・3年ぶりの中学校との合同の「あいさつ運動」や6年生の進学先中学校訪問をはじめ、地域学校園統一の献立やおにぎりの日を実施することができた。 【次年度の方針】 ・今後のコロナ感染症による社会情勢にもよるが、可能な限り①～④を継続していく。	A 2 1	R 3	R 4	児童	85.6%	89.5%	教職員	95.5%	91.3%	保護者	77.6%	84.2%	地域住民	94.1%	95.2%
A 2 1	R 3	R 4															
児童	85.6%	89.5%															
教職員	95.5%	91.3%															
保護者	77.6%	84.2%															
地域住民	94.1%	95.2%															

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒地域住民及び保護者の肯定的回答 85%以上	① 生活科、総合的な学習の時間の他にも奉仕作業や食農体験、地域の施設を活用した行事等、<u>地域素材や人材・施設を活用した学習を継続・実施していく。</u> ・読み聞かせ（ぶどうの会） ・農業体験（田植え、稲刈り）（グラウンドワーク西鬼怒） ・町探検ボランティア ・ミシンボランティア ・校内水泳記録会（ドリームプールかわち）等 ② P T A 学年委員や地域コーディネーターと連携して、活動内容の充実を図る。 ③ 「ぶどうの会」を活用し、図書館の環境整備や本の修繕を通して、図書館経営の充実を図る。	【達成状況】A22 (○) <table border="1"> <thead> <tr> <th>A 2 2</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>87.6%</td><td>90.6%</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>84.5%</td><td>92.5%</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table> ・保護者の肯定的回答が 92.5%，地域住民の肯定的回答も 100.0%で目標を達成している。 ・地域協議会や保護者等と連携し、コロナ禍においても、様々な工夫をして体験活動の活性化や充実が図れた。 ・読み聞かせ、田植えや稲刈りの農業体験、水泳指導、ドリームプールかわちでの校内水泳記録会、町探検ボランティア、ミシンボランティアなどでたくさんのボランティアの協力を得ることができた。 【次年度の方針】 ・地域の教育力を生かした学習は、子供の学びの深化や生きる力を育むために有効な手段であるため、次年度以降も積極的に進めていく。 ・今年度の取組を継続していく。	A 2 2	R 3	R 4	児童	87.6%	90.6%	教職員	100.0%	100.0%	保護者	84.5%	92.5%	地域住民	100.0%	100.0%
A 2 2	R 3	R 4															
児童	87.6%	90.6%															
教職員	100.0%	100.0%															
保護者	84.5%	92.5%															
地域住民	100.0%	100.0%															
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒地域住民及び保護者の肯定的回答 85%以上	① 交流行事や活動のねらいを十分検討し、心の交流につながる活動になるよう工夫を加えながら継続していくとともに、学びを地域に発信する機会を設けるなど、双方向性の交流を目指していく。 ・環境教育 ・モノづくり教室 ・上下水道お届けセミナー ・薬物乱用防止教室 ・人権教室 ・リコーダー教室 ・歯の健康教室 等 ② 「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携して、学校運営の充実を図る。 ・体験活動 ・安全ボランティア ・放課後子ども教室 ③ 外部団体と連携した授業の様子は、学校便り、HP等で積極的に分かり易く家庭・地域へ情報を発信していく。	【達成状況】A23 (○) <table border="1"> <thead> <tr> <th>A 2 3</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>87.6%</td><td>90.6%</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>84.5%</td><td>92.5%</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table> ・保護者の肯定的回答が 92.5%，地域住民の肯定的回答も 100.0%で目標を達成している。 ・係担当を中心に検討を重ね、感染症対策を講じて実施したり、タブレットを活用するなど、実施方法を工夫したりして行った。 【次年度の方針】 ・家庭・地域・企業等との連携は欠かせないことであるので次年度も継続していく。 ・今年度の取組を継続していく。 ・実施方法を工夫し、コロナ禍でもできる形を模索していく。	A 2 3	R 3	R 4	児童	87.6%	90.6%	教職員	100.0%	100.0%	保護者	84.5%	92.5%	地域住民	100.0%	100.0%
A 2 3	R 3	R 4															
児童	87.6%	90.6%															
教職員	100.0%	100.0%															
保護者	84.5%	92.5%															
地域住民	100.0%	100.0%															

A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	① 日常的な点検・定期的な安全点検を実施し、教職員が組織的に施設・設備についての維持管理を行うとともに、改善が必要な個所については、迅速に対応する。 ② 機動班、学校業務嘱託員と十分連携を図りながら、施設修繕を行い安全の確保に努める。 ・危機管理マニュアルの整備。 ・避難訓練や引き渡し訓練等を通した、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備え。 ③ 学校行事等の特別な活動時には、臨時的な安全面の点検を実施する。 ④ 熱中症予防対策、インフルエンザ予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	【達成状況】A24 (△) <table border="1"> <thead> <tr> <th>A 2 4</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>93.3%</td><td>89.1%</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table> ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成しているが、保護者の肯定的回答が89.1%で数値指標を達成していない。 ・年度当初、高置水槽の保全装置の不具合により、緊急事態が発生した。 ・毎月、安全点検で危険個所を把握し、市教委と連携し、学校業務嘱託員や機動班が迅速に修繕に当たってきた。 【次年度の方針】 ・引き続き日常的な点検・定期的な安全点検を実施して安全に配慮した環境づくりに努めていく。 ・施設の老朽化を踏まえ市教委と連携し、危険個所の確認、修繕を実施していく。 ・今後も、危機管理マニュアル、避難訓練等の確認、見直し、改善を行う。	A 2 4	R 3	R 4	児童			教職員	100.0%	100.0%	保護者	93.3%	89.1%	地域住民	100.0%	100.0%
A 2 4	R 3	R 4															
児童																	
教職員	100.0%	100.0%															
保護者	93.3%	89.1%															
地域住民	100.0%	100.0%															
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に利用している」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 一人一台貸与される端末を多様な場面で積極的に活用した授業を展開し、様々な機能（調べる・絵を描く・カメラ撮影等）に慣れ親しむ機会を設定する。 ・論理的な思考力（プログラミング的思考力）を高める。 ② 学習内容に関連する図書を整備していく。 ・授業に関連する図書資料の準備。 ③ 地域学校園内の図書室の蔵書を借りる等して、学習で活用できるようにする。 ・読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。 ・「めざせ1万5千冊」運動 ④ 教職員が、積極的にICT機器を取り入れた授業を実践するとともに、効果的なICT機器の活用法を考える校内研修等を実施する。 ・ホームページを活用して、児童が活動する姿を積極的に発信する。	【達成状況】A25 (○) <table border="1"> <thead> <tr> <th>A 2 5</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td><td>89.2%</td><td>87.2%</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>74.5%</td><td>86.4%</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・授業に関連する図書資料を計画的に準備し、授業における調べ学習に活用した。 ・教職員が、積極的にICT機器を取り入れた授業を実践した。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続していく。	A 2 5	R 3	R 4	児童	89.2%	87.2%	教職員	100.0%	100.0%	保護者	74.5%	86.4%	地域住民		
A 2 5	R 3	R 4															
児童	89.2%	87.2%															
教職員	100.0%	100.0%															
保護者	74.5%	86.4%															
地域住民																	

本校の特色・課題等	B 1 児童は、学校行事や縦割り班活動等を通して、コミュニケーション能力を身に付け、リーダーシップを発揮している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、学校行事や縦割り班活動等を通して、コミュニケーション能力を身に付け、リーダーシップを発揮している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	① 学年・発達段階に応じた交流活動のねらいと実施内容を全職員が共有し、全職員の共通理解のもと系統的に交流が図れるよう工夫していく。 ・異学年の交流活動を上級生がリーダーになって主体的に行い、思いやりの心を育てる。 ・たて割り班による清掃活動。 ・新体力テスト ・読み聞かせ ・1年生となかよくあそぼう集会 ・運動会等 ② 班対抗のゲームや活動を取り入れて、継続的に高学年がリーダーとなる場づくりを推奨する。 ・たて割り班による共遊。 ・各委員会との連携 等 ③ 積極的な情報の発信・提供に努め、地域に開かれた学校の実現に取組、地域に根差し、地域から信頼される学校づくりを推進していく。 ・地域の教育力を生かした教育活動。	【達成状況】B1 (○) <table><tr><td>B 1</td><td>R 3</td><td>R 4</td></tr><tr><td>児童</td><td></td><td>91.0%</td></tr><tr><td>教職員</td><td></td><td>95.7%</td></tr><tr><td>保護者</td><td></td><td>91.2%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td><td>100.0%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答が 91.0%、教職員の肯定的回答も 95.7%で目標を達成している。 ・縦割り班の活動ができるようになり、高学年がリーダーシップをとるとともに、全員で協力する機会が増えた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続していく。 ・コロナ禍の中でも、継続的に高学年がリーダーとなる場を、意図的・計画的に設けることで充実した活動ができるようにする。	B 1	R 3	R 4	児童		91.0%	教職員		95.7%	保護者		91.2%	地域住民		100.0%
	B 1	R 3	R 4															
児童		91.0%																
教職員		95.7%																
保護者		91.2%																
地域住民		100.0%																
B 2 新型コロナウイルス感染症対策並びに新しい生活様式を意識して教育活動を進める。 【数値指標】 全体アンケート「学校は感染症対策並びに新しい生活様式を意識しながら教育活動を進めている」 ⇒教職員・保護者・地域の肯定的評価 80%以上	① 手洗いや消毒などの新型コロナ感染症対策の環境づくりをし、児童自身が積極的に取り組むよう声掛けを行う。 ② 三密を解消するために、今までの教育活動を見直し、工夫をしながら全職員の共通理解のもと諸活動を進めていく。 ③ 活動後の石鹸による手洗いや、アルコールによる消毒、マスク着用など、新しい生活様式を意識した生活ができるよう各教室で十分指導するとともに各種便り・HPを通し、地域や保護者に発信する。 ・給食委員会や保健委員会、放送委員会で、手洗い・マスクの着用・窓開けの呼びかけ等を行い、児童に健康への意識付けを行う。 ・学校便り、学年便り、保健便り、ホームページなどで地域や保護者に積極的に発信する。	【達成状況】B2 (○) <table><tr><td>B 2</td><td>R 3</td><td>R 4</td></tr><tr><td>児童</td><td>96.8%</td><td>96.2%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.3%</td><td>96.5%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0%</td><td>95.2%</td></tr></table> ・保護者の肯定的回答が 96.5%、地域住民の肯定的回答も 95.2%、教職員の肯定的回答も 100.0%で目標を達成している。 ・基本的な感染症対策を心がけて生活している児童が増えた。 ・給食委員会、保健委員会、放送委員会で、手洗い・マスクの着用・窓開けの呼びかけ等を行い、児童に健康への意識付けを行った。 【次年度の方針】 ・新型コロナウイルス感染症が収束するまで①～③について継続し、感染症対策を十分に考慮した上で、教育活動を進めていく。 ・マスクに依存せず、マスクを取ってもよい場面の時には取れるようにする。 ・今後も、国等からの通知をもとに、対応を検討していく。	B 2	R 3	R 4	児童	96.8%	96.2%	教職員	100.0%	100.0%	保護者	94.3%	96.5%	地域住民	100.0%	95.2%	
B 2	R 3	R 4																
児童	96.8%	96.2%																
教職員	100.0%	100.0%																
保護者	94.3%	96.5%																
地域住民	100.0%	95.2%																

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、教育目標の具現化に向けて、今年度も重点目標、具体的な取組を設定し、特色ある教育活動に取り組んできた。

コロナ禍の中にもかかわらず、児童は、夢や目標をもち、その実現に向けて、自ら鍛え、思いやる心を磨きながら、生きる力を身につけて取り組んでいることが、以下の項目の向上（対前年比）から読み取れる。

- ◇「進んで学習に取り組んでいる」児童の肯定的回答 5.3%向上。保護者の肯定的回答 5.1%向上。
- ◇「思いやりの心をもっている」児童の肯定的回答 6.3%向上。地域住民の肯定的回答 5.3%向上。保護者の肯定的回答 4.1%向上。
- ・「きまりやマナーを守って、生活をしている」児童の肯定的回答 9.6%向上。保護者の肯定的回答 7.1%向上。ただし、教職員の肯定的回答が 4.2%低下した。

今年度 10%以上の、顕著な向上が見られた項目は以下の通りである。

- ◇「宇都宮の良さを知っている」保護者の肯定的回答 12.8%向上。教職員の肯定的回答 5.3%向上。
- ◇「ICT機器や図書等を学習に活用している」「学習に必要なICT機器や図書等を整えている」保護者の肯定的回答 11.9%向上。
- ◇「持続可能な社会について、関心をもっている」教職員の肯定的回答 37.4%向上。児童の肯定的回答 3.3%向上。

その他、「英語を使ってコミュニケーションしている」「地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している」「家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる」等も向上している。なお、10%以上及び5～10%低下した項目はゼロである。

学校マネジメントの全体アンケートを振り返ると、27 評価項目のうち 25 項目（92.6%）で、学校の目標値を上回ること

ができた。

【学校運営に関連する評価について】

コロナ禍で各種教育活動等に制限はあったが、全教職員が一丸となって、児童も教師もいきいきと活動する学校、児童も教師も成長する学校、地域とともにある学校の実現による「信頼と魅力ある学校づくり」の実現に向けて、感染症対策を講じた上で、教育活動を工夫しながら知・徳・体のバランスのとれた力の育成に努めた。児童は、学校行事や児童会活動において、一人一人の目標に向かって、粘り強く取り組んでいる様子が見られた。その結果、「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気」「目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」「夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している」「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」の評価指標で昨年度を上回った。

今後とも、児童一人一人を大切に、個に目を向けた学級経営の充実、道徳教育の充実、教育相談を活用したいじめ防止等について継続して取り組んでいく。さらに、学校行事や各学年の活動の様子を、学年便り、学校便り、ホームページ等で紹介し、保護者や地域の方の理解を深めるため、情報発信に努めていく。

【学習指導に関連する評価について】

一人一人が主体的に取組、いきいきと学び合う児童の育成 ～基礎・基本の定着を図り、表現力を高める言語活動の工夫～の実現に向けて、学びあいの活動を取り入れるなど、授業展開を工夫するとともに、GIGAスクール構想の実現のため、一人一台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現に取り組んだ。また、A1型個別学習ドリルを活用し、一人一人の習熟の程度に応じた学習に取り組む等、個に応じたICT機器の活用に取り組んだ。その結果、「進んで学習に取り組んでいる」「分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」の項目で数値目標を上回った。今後も、学力の基礎・基本の確実な定着のため、分かる授業の実践はもとより、好ましい学習態度や学習習慣の定着を目指して児童を指導していく。

【児童生徒指導に関連する評価について】

一人一人が自信をもち、共に支え合いながら、生き生きと活動する児童の育成のため、地域学校園や代表委員を中心としたあいさつ運動を実施し、あいさつの習慣化に取り組んだり、1年生となかよく遊ぼう集会などの異学年の交流活動等を計画的に設定し、児童の思いやりの心を育てたりした。その結果、「時と場に応じたあいさつ」「思いやりの心をもっている」「いじめが許されないこと」「不登校を生まない学級経営」の項目で目標値を上回ることができた。しかし、児童の廊下の歩行の仕方や時間を守ることなどの意識がまだ低い面が見られるので、全職員が共通の指導を行えるようにしていく。今後も「いじめ」を許さないという基本姿勢を崩さず児童の成長を支援していく。

【健康（体力・保健・食・安全）に関連する評価について】

生涯を通して運動に親しもうとする態度を育成し、体力や健康に関する知識や技能を身に付け、自他の生命を尊重しながら、安全な生活を営む児童の育成のため、避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施して、体験活動を通じた安全教育を推進した。また、地域や保護者と連携して感染症対策の徹底を図るとともに、その他の安全教育も委員会活動とタイアップしながら、児童主体の活動として実施した。その結果、「健康や安全に気を付けて生活している」「新型コロナウイルス感染症対策並びに新しい生活様式を意識して教育活動を進める」の項目で、数値目標を上回ることができた。今後とも児童の安全・安心を第一に学習環境を整備し教育活動を進めていく。

7 学校関係者評価

【学校運営に関連する評価について】

- ・学校は、児童の一人一人の経験や体験活動を大切にしている。子供たちの健全育成に向けて、これからも経験や体験活動を継続して、実施して欲しい。
- ・白沢小学校地域協議会の各部会（学校教育支援部会、学校安全対策部会、地域事業推進交流部会）はよく活動している。これからも各部会の活動をお願いしたい。
- ・コロナ禍のため、地域住民が児童と触れ合う機会はありません。地域住民として学校評価は評価しにくい。地域住民が、今後（コロナ後、新しい生活様式）、児童と触れ合う機会があるとありがたい。
- ・児童、保護者、地域住民、教職員の評価に、数値的に乖離（差）が見られる。それぞれの数値は高く、4者の数値は近いほうがいい。学校の教職員が十分に指導しているのに、児童に十分に伝わっていない（指導の成果として表れていない）ものもあるのではないかと。今後、数値は高く、4者が同じような認識になるのが理想だと思う。学校評価については、保護者の理解が足りないものもあるのではないかと。今後、保護者への啓発活動を、さらに進めて欲しい。

【学習指導に関連する評価について】

- ・学校は、児童一人一人の学力の向上に目を向けて指導してくれている。大変ありがたい。これからも継続的な指導をお願いしたい。
- ・「児童は宇都宮の良さを知っている。」「児童はICT機器や図書等を学習に活用している。」「学校は学習に必要なICT機器や図書等を整えている。」が昨年度より向上している。今年度、改善が見られた。学校としてがんばっていると思う。自分たちが住んでいる白沢の良さの発見、町探検等が生きている。この白沢地域の良さであり、たくさんの地域の方々にお世話になっている。大変ありがたい。
- ・ICT機器はどの学級でも積極的に取り組んでいる。ICT機器の活用は、これからの時代どの学校でも切り離せないものである。これからも大事にして欲しい。

【児童生徒指導に関連する評価について】

- ・「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」の児童の肯定的回答が高い。異学年交流はとても大切

なことである。白沢小の異学年交流をこれからも継続して実施して欲しい。

- ・この一年間の児童の成長は、目を見張るものが見られた。昨年度と比べても、児童はとても落ち着いてきた。児童の成長を一番感じられた一年だった。とても良かった。これからも継続して指導して欲しい。

【健康（体力・保健・食・安全）に関連する評価について】

- ・児童の安全安心のために、地域として今後も協力していきたい。登下校時に大きな事故がなくて良かった。
- ・コロナ禍の前は、児童は公園などで遊んでいたが、今は公園で遊んでいる児童は見られなくなった。地域の中で児童の声が聞こえるといい。児童は家の中でゲームをしているのかと思ってしまう。児童は、放課後に、公園などで元気に遊んで欲しい。
- ・体育館の空調設備工事が終わって、児童が体育館で元気に走り回る姿を見て、児童はコロナ禍に負けていないと思った。
- ・自転車に乗るルールが守れていない児童が見られる。自転車の乗り方、信号を守る、交通ルールを守る、マナーを守る等の指導をして欲しい。ヘルメットの使い方は各学級で指導しているとのことであるが、低学年のうちから指導して欲しい。
- ・交通安全のルールを身に付けるため、河内地区交通安全推進協議会（河内地区まちづくり協議会）で実施している講習会を活用して欲しい。河内地区の各学校は順番制となっている。交通安全のルールの指導を推進している。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校運営の状況、教育活動の状況、学習指導、児童指導、健康・体力、本校の特色・課題などの多くの事項については、概ね目標を達成することができた。

白沢小学校の創立 149 年の歴史と伝統を重んじ、今後とも、「広い視野を持ち、心身共に健康で、創造性と実践力に富む、心豊かな児童」の育成のため、学校としての組織力を高めるとともに、学校・家庭・地域が、チーム白沢として、創意工夫をこらした教育活動を展開し、誰もが安心して学べ、活力にあふれる、地域とともにある学校づくりを推進する。

コロナ禍の中、児童の安全・安心を第一に、「時と場に応じたあいさつ」「きまりやマナーを守った生活」の習慣化のため、あいさつ強化週間や中学校との合同あいさつ運動等をさらに活性化し、より多くの児童が積極的に運動に参加できるよう、地域ぐるみのあいさつ運動を積極的に展開する。

児童の安全安心の確保のため、自転車の乗り方やルールについても、宇都宮市、市民まちづくり部生活安心課防犯・交通安全グループ、河内地区交通安全推進協議会（河内地区まちづくり協議会）等と連携し、今後とも指導していく。

「児童は宇都宮の良さを知っている。」「児童はＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。」「学校は学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。」についても、教職員間で共通理解、工夫改善を図り、取り組んでいく。

また、「感謝や思いやりの心の育成」のため、学校・家庭・地域との連携を密に、今後も体験活動と関連を図った授業を実施するとともに、地域との交流活動を実践する。

さらに、保護者の肯定的回答に低い項目が見られるので、ＩＣＴ機器や図書を活用している児童の様子、いじめ防止に関する資料や学校での取組、学校行事や各学年の児童が活動する様子等を、学校・学年便り、ホームページ等で保護者や地域に情報発信していく。

次年度も、本校の学校運営の状況、教育活動の状況、学習指導、児童指導、健康・体力、本校の特色などについて積極的に公表しながら、今年度の取組を継続・発展させ、学校と家庭、地域が協力・連携を図り、地域ぐるみで学習環境を整えていく。

「小中一貫教育・地域学校園の取組」については、古里地域学校園の、これまでの実践を継続していくとともに、お知らせ、各種たより、ホームページ等を工夫するなどして、家庭や地域の方々への周知・情報発信を図っていく。

特に、地域とともにある学校を目指して、積極的な情報の発信・提供に努め、地域に開かれた学校の実現に取組、地域に根差し、地域から信頼される学校づくりを推進していく。

これからも、地域や家庭からの建設的な声を学校運営に反映し、改善を図りながら、教育活動全体の質の向上に努めていく。